

ダム水源地域の活性化に向けた湖面利用や周辺環境整備

●具体的な整備内容

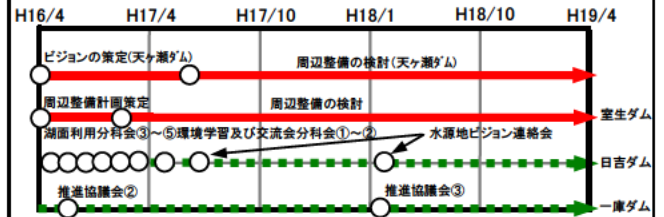
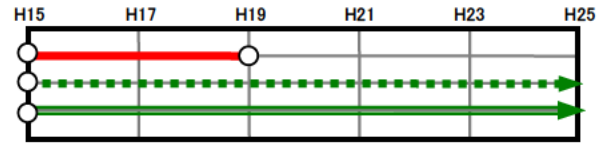
ダムの建設は水没を伴わざるを得ず、移転を余儀なくされた住民をはじめとして、ダムが建設された地域へ大きな社会的影響を与えた。

●事業の数量・諸元等

●事業費

●スケジュール

— 検討 — 委員会 — 実施



●整備効果

ダム水源地域ビジョンと連携して、一定のルールに基づいた湖面活用が促進されることで、ダム水源地の活性化が図れる。また、ダムを身近に感じてもらうことで、利用者のダムに対する理解が深まることが期待できる。

●提案理由(代替案含む)

ダム水源地域の活性化に向けた湖面利用や周辺環境整備

委員会等からの意見

ダム水源地域の活性化に向けた各種の対策を継続的に実施し、上下流の交流やダムに対する理解と協力を得ようとする施策は、さらに発展させる必要がある。ただし、自然環境破壊をもたらすことのないように十分注意する必要がある。

ダム水源地域の活性化に向けた湖面活用や周辺環境整備などのハード対策とともに、地域イベントや催しなどのソフト対策を継続的に実施する場合、下記の事項への配慮と支援が必要である。

- ・生態系に悪影響を及ぼす恐れのある活性化の規制・禁止(例:湖面活用による事故や水質悪化)
- ・地元自治体、住民、利用者等との密接な連携体制の構築
- ・イベントや施設整備によらない活性化の検討
- ・ダムの特長・地域の特長を活かした活性化の検討

進捗状況

・室生ダムにおけるダム湖活用環境整備事業について水資源機構と国土交通省にての基本協定締結にむけ実施中

- ・水源地域ビジョンに基づき地域活性化となる行事等を推進する。(一庫ダム)
- ・これまで、水源地ビジョン連絡会、各分科会を適宜開催しており、今後も引き続き実施していく。(日吉ダム)
- ・「天ヶ瀬ダム水源地域ビジョン策定検討会」を平成14年度に組織し、平成16年10月までに6回の検討を行い、「天ヶ瀬ダム水源地域ビジョン」を成案化し、平成16年12月には記者発表を行った。
- ・天ヶ瀬ダムでは、昭和62年以降平成17年度まで19回イベントを開催。

進捗状況

状況写真(ない場合はイメージ図あるいは図面)



一庫ダム水源地域ビジョンにおける森林(里山)の保全・育成のため、また、環境省の里地里山保全再生モデル事業におけるアクションとして、「クヌギを植えて里山を造ろう大作戦!!」が平成17年11月12日(土)一庫ダムで行われました。

今後の見通し

- ・日吉ダムについては、引き続き実施予定。
- ・一庫ダムについては、水源地域ビジョンに基づき地域活性化となる行事等を推進する。
- ・高山・青蓮寺・室生・布目・比奈知ダムについては、水源地域ビジョン実行委員会開催予定。
- ・天ヶ瀬ダムについては、水源地域ビジョン推進連絡協議会の発足に向け委員会で活動中。